

## 第4章 研究のまとめ

### 4.1. 主な成果

主要な成果は以下の通りである。

- (1) 交通事故統計データを用いてマクロ集計を実施し、本研究で対象とすべき事故類型を把握した。
- (2) 個別の箇所において運転者のヒューマンエラーを抽出するとともに、その発生に関連する道路・沿道環境要因を把握する手法を提案した。
- (3) 把握した事故要因に対し、効果的と考えられる対策を立案した。
- (4) DSによる実験結果と実走行実験結果の比較分析を行い、DSの現況再現性を確認した。
- (5) DSにより、対策案の効果を検証する手法を提案した。

交通事故の更なる削減が求められている中で、ヒューマンエラーに着目して事故の要因を的確に把握する手法の提案は、従来の経験的な事故要因分析では削減が困難な事故の削減に資するものと考えられ、有益な成果であるといえる。

また、DSを用いた事故要因の再現においては、概ね再現性を確認するとともに対策効果の検証手法を提案し、対策効果評価への活用が見出せた。

### 4.2. 今後の課題

事故要因をよりの確に把握する手法については、現段階ではヒューマンエラーと道路・沿道環境要因との関連の把握及び効果的と考えられる対策の提案にとどまっているため、今後手法の確立へ向けた検討を行う必要がある。具体的には、現場の事故対策検討箇所に本手法を導入するなどにより、実走行実験による事故要因分析、対策の立案を経て対策を実施しながら、事例の蓄積及び効果の検証を行っていく必要がある。

実施する対策の選定に当たっては、DSを用いて事前に対策効果を分析するなど、本研究で得られた知見を活用したい。

また、対策の効果について、本研究で検証した路面のカラー化だけでなく、多種多様な交通安全対策の中から優先的に検討すべきものを取り上げ、昼夜、天候等の諸条件を念頭に置きながら検討を進めていきたい。

さらに、実走行実験の実施手順等をわかりやすく整理するなどにより、手法の普及に努めていきたい。